

## プレゼンテーションⅢ「四旬節一回心と入信の秘跡の準備」

具 正 謨

### 1. 四旬節

「四旬節は、復活の祭儀の準備するために設けられている。四旬節の典礼によって、洗礼志願者はキリスト教入信の諸段階を通して、また、信者はすでに受けた洗礼の記念と償いのわざを通して、過越の神秘の祭儀に備えるのである」（『典礼暦年と典礼暦に関する一般原則』27）。

すなわち四旬節は、

第一、四旬節は復活祭を準備するための期間である。

第二、四旬節は洗礼志願者たちにとって特別な期間である。

第三、四旬節は信者たちが、すでに受けた洗礼の恵みを新たに作る期間である。

四旬節は聖週間にその頂点を示すが、それは自分の命を他人のためにささげたイエスの愛の深さを最もよく現している。教会の四旬節における様々な準備は、イエスのこの愛に倣うために設けられているのである。

### 2. 聖なる過越の三日間

「主の受難と復活からなる聖なる三日間は、全典礼暦年の頂点として輝きを放っている」（同 18）。「過越の三日間は、主の晩餐の夕べのミサに始まり、その中心を復活徹夜祭におき、復活の主日の『晩の祈り』で閉じる」（同 19）。「主の受難の聖金曜日に、また適当であれば聖土曜日にも、復活徹夜祭まで、どこでも過越の聖なる断食が行われる」（同 20）。

「聖なる三日間」は、主の受難と死と復活とを一連のものとして祝う典礼である。聖木曜日の夜から聖金曜日の夜が来るまでが第一日目であり、聖金曜日の夜から聖土曜日の夜が来るまでが第二日目であり、復活徹夜祭が始まる聖土曜日の夜から復活祭の日曜日の夜の晩の祈りまでが第三日目に当たる。

### 3. 復活徹夜祭における入信式

「数段階に分けられる成人の洗礼準備制度が復興されなければならない。この実行は、地区裁治権者の判断による。こうして、順次に行われる聖なる儀式によって、適確な教育を目的とする洗礼準備期間が聖化される」（『典礼憲章』64）。

現代の式文は「洗礼準備制度」（catechumenate）の復興が特記すべきである。3世紀初期の文献である『使徒伝承』には、「洗礼準備制度」の詳しい内容が記録されている。『使徒伝承』の伝統に従って作られた現行の「洗礼準備制度」は、基本的に二つの軸を基にしている。一つは、典礼暦を中心とする時間軸であり、もう一つは、教会共同体全体を中心とする空間軸である。それゆえ洗礼式は、暦の頂点である復活徹夜祭に、共同体と共に行われるのである。この二つの軸をまとめ上げるのは、毎日曜日のミサ典礼である。3年間のミサ典礼を忠実にを行うことによって求道者たちは共同体の中でイエス・キリストの神秘に徐々に与ることになる。